

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 18 年 2 月 23 日 (2006.2.23)

【公開番号】特開 2003-250463 (P2003-250463A)

【公開日】平成 15 年 9 月 9 日 (2003.9.9)

【出願番号】特願 2003-13350 (P2003-13350)

【国際特許分類】

A 2 3 K	1/16	(2006.01)
A 2 3 K	1/00	(2006.01)
A 2 3 K	1/18	(2006.01)
A 6 1 K	9/10	(2006.01)
A 6 1 K	9/20	(2006.01)
A 6 1 K	31/201	(2006.01)
A 6 1 K	31/205	(2006.01)
A 6 1 K	31/215	(2006.01)
A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 K	47/02	(2006.01)
A 6 1 K	47/12	(2006.01)
A 6 1 K	47/26	(2006.01)
A 6 1 K	47/38	(2006.01)
A 6 1 K	47/44	(2006.01)

【F I】

A 2 3 K	1/16	3 0 1 F
A 2 3 K	1/16	3 0 1 H
A 2 3 K	1/00	Z
A 2 3 K	1/18	A
A 6 1 K	9/10	
A 6 1 K	9/20	
A 6 1 K	31/201	
A 6 1 K	31/205	
A 6 1 K	31/215	
A 6 1 K	45/00	
A 6 1 K	47/02	
A 6 1 K	47/12	
A 6 1 K	47/26	
A 6 1 K	47/38	
A 6 1 K	47/44	

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 1 月 10 日 (2006.1.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 コンパニオン動物における総合的な体重管理を促進する方法であって

、
前記動物に、該動物における減量を促すのに十分な期間に亘り、乾物基準で、約 3 5 か

ら約70重量%の蛋白質、約4から10重量%の脂肪、約2から約25重量%の繊維、約10から約35重量%の炭水化物、および約0.1から約2重量%の機能性成分を有してなる第1の規定食を給餌し、

減量した状態を維持するように、前記動物に、乾物基準で、約20から約35重量%の蛋白質、約4から10重量%の脂肪、約2から約25重量%の繊維、約25から約70重量%の炭水化物、および約0.1から約2重量%の機能性成分を有してなる第2の規定食を給餌する、

各工程を有してなることを特徴とする方法。

【請求項2】 前記動物が、犬および猫からなる群より選択されることを特徴とする請求項1記載の方法。

【請求項3】 前記脂肪が長鎖必須脂肪酸を含むことを特徴とする請求項1記載の方法。

【請求項4】 前記機能性成分が、L-カルニチン、共役リノール酸およびジアシルグリセリドからなる群より選択されることを特徴とする請求項1記載の方法。

【請求項5】 前記機能性成分が共役リノール酸であることを特徴とする請求項4記載の方法。

【請求項6】 前記機能性成分がジアシルグリセリドであることを特徴とする請求項4記載の方法。

【請求項7】 前記ジアシルグリセリドが植物油から得られることを特徴とする請求項6記載の方法。

【請求項8】 前記植物油がエコナ油であることを特徴とする請求項7記載の方法。

【請求項9】 前記総合的な体重管理が、除脂肪体重の増加、減量、動物の満腹感の高まり、動物の自発的な食餌の摂取の減少、BUNレベルの減少、BUN/クレアチニン比のレベルの減少、および動物へのケトーシスのリスクの減少からなる群より選択されるコンパニオン動物の生理現象の変化を含むことを特徴とする請求項1記載の方法。

【請求項10】 コンパニオン動物において総合的な体重管理を促進するためのペットフード製品であって、乾物基準で、約35から約70重量%の蛋白質、約4から10重量%の脂肪、約2から約25重量%の繊維、約10から約35重量%の炭水化物、および約0.1から約2重量%の機能性成分を有してなることを特徴とするペットフード製品。

【請求項11】 前記ペットフード製品が、ウェットタイプのペットフード、セミモイストタイプのペットフード、ドライタイプのペットフード、ペットのおやつ、ペットのスナック、およびペット用飲料からなる群より選択されることを特徴とする請求項10記載のペットフード製品。